



## 2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年2月7日

上場取引所 東

上場会社名 リソルホールディングス株式会社

コード番号 5261 URL <https://www.resol.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大澤 勝

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 齊藤 達男 TEL 03-3344-8861

配当支払開始予定日 -

決算補足説明資料作成の有無: 無

決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期第3四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	21,830	10.2	2,544	17.4	2,442	19.0	2,546	36.7
2024年3月期第3四半期	19,807	12.9	2,167	127.1	2,051	130.5	1,862	266.0

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 2,549百万円 (36.6%) 2024年3月期第3四半期 1,866百万円 (269.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	458.38	-
2024年3月期第3四半期	335.24	-

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年3月期第3四半期	43,955	16,775	38.1	3,016.52
2024年3月期	43,003	14,666	34.0	2,634.33

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 16,760百万円 2024年3月期 14,635百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	-	0.00	-	80.00	80.00
2025年3月期	-	0.00	-	-	-
2025年3月期（予想）	-	-	-	90.00	90.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

### 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	27,000	5.0	2,200	3.6	2,000	2.7	1,500	6.2	270.00

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更に関する注記)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年3月期3Q	5,564,200株	2024年3月期	5,564,200株
2025年3月期3Q	7,980株	2024年3月期	8,695株
2025年3月期3Q	5,555,942株	2024年3月期3Q	5,555,553株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー： 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来性に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P3「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(金額の表示単位の変更について)

当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位をもって記載することに変更しました。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第3四半期連結累計期間についても百万円単位に組替え表示しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(会計方針の変更に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、物価高を上回る賃金上昇に加え、訪日外国人旅行者数が過去最高を更新したことによるインバウンド消費の伸びや、雇用・所得環境の改善などを背景に緩やかな景気回復基調を維持しました。一方で、ウクライナや中東地域をめぐる不安定な国際情勢や、資源価格やエネルギーを含む物価の高騰、中国経済の先行き懸念、米国の今後の政策動向などにより、先行きは依然として不透明な状況にあります。

当社グループを取り巻く環境においては、インバウンドマーケットの好調、底堅いゴルフプレー需要、企業の人的資本投資拡大による研修需要の増加など堅調な状況が続いています。このような経営環境のもと、インバウンド需要に向けたマーケティング施策、ワンランク上のサービス提供、上質化などで既存事業の成長を図りました。また、新たな価値の創造の取組みとして、フェアウェイの眺望が堪能できる高級ゴルフリゾートの“フェアウェイフロントヴィラ事業”、「暮らすように泊まる。」をコンセプトとした滞在型貸別荘の“リソルステイ事業”、プライベート温泉とドッグランをヴィラに備えたリソルの森の“ペットヴィラ事業”を推進しました。同時に、グループの価値基準「あなたのオフを、もっとスマイルに。」と長期方針である3つの「やさしい」（人にやさしい・社会にやさしい・地球にやさしい）の実践を図るため、サービス体制を強化してお客様の満足度向上に努めました。

ホテル運営事業では、旺盛なインバウンド需要について、マーケットに合わせた各種プロモーション施策を実施したことで客室単価・稼働率が順調に推移しました。また、主力ブランドの“リソルホテルズ”において、「物語のあるホテル」を新コンセプトに掲げ、“ツーリストホテル”としてのブランド構築を目指してサービスや品質の向上に積極的に取り組みました。特に、「体験価値」の提供として、土地に根ざした文化や芸術を取り入れた館内装飾や日本文化体験イベントの開催、専任スタッフ「サービスコーディネーター」の配置による周辺情報の案内など、ホテルでの滞在をより充実したものにするコンシェルジュサービスを開始しました。さらに、直販率の向上を目指してスマートフォンアプリ活用による販促強化の準備を推進しました。

ゴルフ運営事業では、コース品質向上、接客サービス向上、ハード面の改修、美味しい食事の提供など、他社との差別化を図る施策を強化したことで客単価が向上しました。また、前年に取得した「入間カントリー倶楽部」の運営や会員権販売が好調を維持し、業績は堅調に推移しました。さらに、新規事業である“フェアウェイフロントヴィラ”事業では「瀬戸内ゴルフリゾート」において、韓国からのヴィラ宿泊を伴うゴルフ利用が好調に推移しました。さらに、「大熱海国際ゴルフクラブ」において新たなフェアウェイフロントヴィラの開発準備を進めました。

リソルの森事業では、ゴルフ部門（真名カントリークラブ）において、コース品質向上に伴い、販売単価の上昇や会員権販売が順調に推移し、業績は好調を維持しました。リゾート部門においては、2024年10月に開業したドッグヴィラ「Dear Wan Spa Garden」（全10棟）が、計画売上を上回り好調に推移しました。また、企業研修やスポーツチームなどの団体利用や会員制リゾートクラブ「ゴルフバケーションクラブ」の販売が好調を維持し、業績は堅調に推移しました。

福利厚生事業では、関東ITソフトウェア健保との提携が寄与し、業績は順調に推移しました。また、「精算ビジネスモデル」（利用実績に応じて補助金を精算・返金する透明性の高い料金体系）、「プラスユアチョイス」（提携外の施設も利用可能なカスタマイズ性の高いプラン）、「直営施設」（ホテル・ゴルフ場等の優待価格、出張・企業研修の限定プランの提供）を差別化に、新たな営業ツールの活用とTVCMによるプロモーション実施などで新規顧客開拓を推進しました。さらに、既存会員の利用促進を図るため、魅力的なサービスメニューの開発と、利便性向上に向けた新たな検索サービスシステムの構築を図りました。

再生エネルギー事業では、既存施設の管理を行いながら、グループゴルフ場における新たなソーラーカーポート建設の準備を進めました。

投資再生事業では、市場環境を見据えながら物件の売却を控え、新規運営施設の仕入れ等の検討を進めました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間は、ホテル部門における旺盛なインバウンド需要の取込みが計画を大幅に上回ったことや、前年取得した「入間カントリー倶楽部」の運営が好調に推移したことにより、運営事業の売上及び利益が増加し、売上高は21,830百万円（前年同四半期比10.2%増）、営業利益は2,544百万円（同17.4%増）、経常利益は2,442百万円（同19.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,546百万円（同36.7%増）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、43,955百万円となり、前連結会計年度末に比べて951百万円増加しております。これは主に建物及び構築物(純額)が625百万円増加及び現金及び預金が188百万円増加、販売用不動産が152百万円増加等によるものです。

負債につきましては、27,179百万円となり、前連結会計年度末に比べて1,157百万円減少しております。これは主に預り保証金が760百万円減少及び短期借入金500百万円減少、営業未払金が64百万円増加等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2024年5月9日に公表いたしました「2024年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」に記載の業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,590	3,779
営業未収入金(純額)	1,824	1,986
商品	121	151
販売用不動産	1,914	2,067
貯蔵品	106	77
その他	1,182	969
流動資産合計	8,740	9,031
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,038	7,664
土地	18,605	18,606
その他(純額)	2,558	2,547
有形固定資産合計	28,202	28,817
無形固定資産		
のれん	311	271
その他	625	703
無形固定資産合計	936	974
投資その他の資産		
投資その他の資産合計	5,124	5,131
固定資産合計	34,263	34,923
資産合計	43,003	43,955

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	373	438
短期借入金	2,000	1,500
1年内返済予定の長期借入金	3,137	4,234
未払法人税等	148	151
賞与引当金	262	174
役員賞与引当金	20	—
その他	4,393	4,074
流動負債合計	10,335	10,573
固定負債		
長期借入金	8,718	8,176
リース債務	1,159	1,062
従業員特別補償引当金	103	103
退職給付に係る負債	389	399
資産除去債務	194	196
預り保証金	7,311	6,551
その他	123	116
固定負債合計	18,001	16,606
負債合計	28,336	27,179
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,948	3,948
資本剰余金	2,244	2,267
利益剰余金	8,449	10,551
自己株式	△22	△20
株主資本合計	14,619	16,747
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	15	13
その他の包括利益累計額合計	15	13
非支配株主持分	31	14
純資産合計	14,666	16,775
負債純資産合計	43,003	43,955

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	19,807	21,830
売上原価	5,986	6,231
売上総利益	13,820	15,599
販売費及び一般管理費	11,653	13,054
営業利益	2,167	2,544
営業外収益		
受取利息	0	0
受取賃貸料	6	7
受取保険金	11	28
還付金収入	7	9
その他	49	41
営業外収益合計	75	86
営業外費用		
支払利息	127	132
支払手数料	42	49
その他	22	6
営業外費用合計	191	188
経常利益	2,051	2,442
特別利益		
固定資産売却益	2	0
負ののれん発生益	148	—
違約金収入	—	400
特別利益合計	151	400
特別損失		
固定資産売却損	1	—
固定資産除却損	31	2
減損損失	—	147
従業員特別補償引当金繰入額	94	26
その他	10	—
特別損失合計	137	176
税金等調整前四半期純利益	2,065	2,666
法人税、住民税及び事業税	173	124
法人税等調整額	25	△9
法人税等合計	198	115
四半期純利益	1,867	2,551
非支配株主に帰属する四半期純利益	4	4
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,862	2,546

(四半期連結包括利益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益	1,867	2,551
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	△0	△2
その他の包括利益合計	△0	△2
四半期包括利益	1,866	2,549
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,861	2,544
非支配株主に係る四半期包括利益	4	4

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前連結会計年度の四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2023年4月1日 至2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額 (注①)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注②)
	ホテル 運営事業	ゴルフ 運営事業	リソルの森 事業	福利厚生 事業	再生 エネルギー 事業	投資再生 事業	計		
売上高									
(1) 外部顧客への売上高	9,187	6,414	2,893	649	72	589	19,807	—	19,807
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	66	35	33	23	—	6	164	△164	—
計	9,253	6,450	2,926	673	72	595	19,971	△164	19,807
セグメント利益	1,032	1,038	301	28	33	530	2,964	△912	2,051

(注) ① セグメント利益の調整額△912百万円には、セグメント間取引消去△139百万円及び各報告セグメントに配分していない全社損益△773百万円が含まれております。全社損益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び営業外損益であります。

② セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 収益認識の時期別に収益の分解情報を示す場合

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ホテル 運営事業	ゴルフ 運営事業	リソルの森 事業	福利厚生 事業	再生 エネルギー 事業	投資再生 事業	計		
一時点で移転される財	9,185	6,176	2,789	132	72	589	18,946	—	18,946
一定の期間にわたり移転される財	1	237	104	517	—	—	860	—	860
顧客との契約から生じる収益	9,187	6,414	2,893	649	72	589	19,807	—	19,807
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	9,187	6,414	2,893	649	72	589	19,807	—	19,807

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2024年4月1日 至2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額 (注①)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注②)
	ホテル 運営事業	ゴルフ 運営事業	リソルの森 事業	福利厚生 事業	再生 エネルギー 事業	投資再生 事業	計		
売上高									
(1) 外部顧客への売上高	11,257	6,650	3,098	711	78	33	21,830	—	21,830
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	75	47	33	28	—	18	202	△202	—
計	11,332	6,697	3,132	740	78	51	22,033	△202	21,830
セグメント利益	2,088	943	305	49	37	5	3,430	△988	2,442

(注) ① セグメント利益の調整額△988百万円には、セグメント間取引消去△156百万円及び各報告セグメントに配分していない全社損益△831百万円が含まれております。全社損益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び営業外損益であります。

② セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ホテル運営事業」セグメントにおいて、事業用資産である固定資産につき減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては147百万円であります。

3. 収益認識の時期別に収益の分解情報を示す場合

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ホテル 運営事業	ゴルフ 運営事業	リソルの森 事業	福利厚生 事業	再生 エネルギー 事業	投資再生 事業	計		
一時点で移転される財	11,256	6,335	2,998	184	78	33	20,887	—	20,887
一定の期間にわたり移転される財	1	314	100	527	—	—	942	—	942
顧客との契約から生じる収益	11,257	6,650	3,098	711	78	33	21,830	—	21,830
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	11,257	6,650	3,098	711	78	33	21,830	—	21,830

#### 4. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの利益又は損失の測定方法の変更)

第1四半期連結会計期間より、経営管理上の管理区分を報告セグメントごとの経営成績へより適切に反映させるため、本社機能における収益及び費用配賦を一部見直すことといたしました。これに伴い、「ホテル運営事業」、「ゴルフ運営事業」、「再生エネルギー事業」および「投資再生事業」の利益又は損失の測定方法の変更を行っております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(報告セグメントの名称変更)

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの名称を「リソルの森(CCRC)事業」から「リソルの森事業」に変更しております。このセグメント名称変更による各セグメントの業績に与える影響はありません。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の名称により作成したものを開示しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	775百万円	870百万円
のれんの償却額	39	39